



消防学校 ニュース



謹賀新年 令和2年1月号

消防職員専科教育 予防査察・危険物科(第4期)

12月2日(月)～12月18日(水)の13日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内16消防本部から41人が参加しました。

本課程は、火災予防・危険物業務において更なる専門性の向上や専門知識の充実・拡大を目的に、平成28年度に「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合したものです。



到達目標は、査察・危険物行政の現状と課題を理解し、的確な査察要領の取得、違反對象物に対する是正指導ができること。また、危険物に関する専門的な知識を修得することです。

そのために、県内外から予防業務に専従している消防職員や法律の専門家、危険物化学の大学教授など、予防業務のスペシャリストとも言える方々を講師に招き、幅広く専門的な教育を実施しました。



(担当教官から)

予防業務は国民の生命、身体および財産を火災から守るための根幹であり、消防業務の中で最も重要な役割を担っていると云えます。

「火災から守るためには何が必要なのか？」

それを念頭に今後の予防業務に励んでいただけたらと思います。



消防団員幹部教育 分団指揮課程（第5期）

12月7日（土）～8日（日）の2日間、消防団員幹部教育分団指揮課程を開催し、県内市町の消防団から58人が参加しました。

災害現場等においてリーダーシップを発揮して指揮を執り、自身と仲間の安全を確保しながら、任務を的確に遂行できるように座学・訓練を行いました。

（担当教官から）

住宅構造の変化や多様化から、従来の消火戦術に加え、ガンタイプノズルや小口径ホース、防護装備等を活用し、的確な状況評価と戦術決定のうえ、より効果的に活動する意識と必要性が高まっている今、活動の成否に消防署と消防団の共通認識は欠かすことのできない要素の一つです。分団指揮課程（第5期）ではその共通認識醸成を主眼に座学・訓練を行いました。消防団の指揮者が的確な指揮をするためには消防署の活動を理解し、その正確な理解のためには理化学的な知識が必要となります。今回入校した消防団幹部の皆様も総復習の意味合いもこめまして、燃焼の3要素をはじめ、煙の性状、熱の伝わり方や消火により発生する水蒸気のメリット・デメリットなどの消火活動に必要な基礎的事項について、それが活動にどう繋が

燃焼の3要素



っていくのかを含めて確認しました。訓練では、座学で学んだ理化学知識

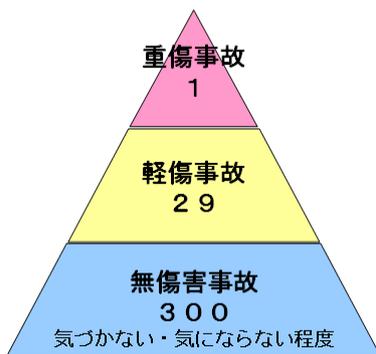
と消火戦術を生かし、先着隊が消防団であった場合の基本的な活動要領についてシミュレーション訓練を実施しました。安全管理の講義では、人間がミスをするることについて、ただ「気をつける」という抽象的な概念ではなく、災害現場での任務遂行や効果的な部下指導にも生かせるよう科学的視点から具体的行動対策について考えました。

また、今後30年以内に70%程度の高い確率で発生すると予測される南海トラフを震源域とするマグニチュード(M)8以上の大地震、頻発する豪雨災害、木造建築物密集地域における大規模火災など、消防署・消防団を問わず、我々消防

人を取り巻く環境は緊迫感・切迫感に満ちています。大規模災害発生時に消防の責務を果たすためには平時からの備えが重要です。その認識を深めるため消防本部と消防団本部の連携に主眼をおいたシミュレーション訓練と住民の自助意識高揚につながる図上訓練を行いました。

短い期間ではありましたが本課程を修了した消防団幹部の皆様が、本課程において得られたことが地域へのフィードバックを通じて、ご自身の成長と部下育成につながり、将来必ず発生する大規模災害への備えとなり、またお守りとなることを強く願います。

ハインリッヒの法則



消防理化学と消火戦術の座学



大規模災害時の連携訓練



指揮シミュレーション訓練

消防職員幹部教育上級幹部科(第18期)

12月3日(火)～5日(木)の3日間、幹部教育上級幹部科を開催し、各消防本部の要を担う12人が参加しました。多くの課題に対する確に対応するため消防力や組織力の強化・向上が求められる中、多彩な顔ぶれの講師陣による講義や意見交換などを通じて、組織全体を円滑に管理運営するために必要な知識や考え方などを会得しました。



各消防本部の要を担う上級幹部科の皆さん



事例研究の様子

消大レポート 消防大学校警防科(第106期)

令和元年10月17日(木)から12月6日(金)までの間、消防大学校において警防科(第106期)へ入校し、全課程を修了しました。警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させることを目的としており、警防活動の多様な理論・事例・戦術及びシミュレーションを含めた指揮訓練並びに教育技法、講義演習、安全管理等について学びました。

指揮訓練においては、一般的な木造・防火造建物を想定した小隊指揮訓練について、まずはシミュレーション訓練にて現場指揮の基礎を体感し実科訓練に繋げていきました。そして同様の想定での中隊指揮訓練を繰り返し実施し、最終的には学生主体の学生企画訓練に向けて指揮技術の修得を目指しました。その中でも、今年度から新たな試みとして「街区火災対応訓練」を実施しました。平成28年12月に発生した糸魚川市大規模火災のように、街区火災は日本全国どこにでも起こりえる火災であり、発生すれば甚大な被害が予想されます。これらの指揮要領の修得及び現場対応能力の向上はどこの所属においても課題に挙げられておりましたので、今回の訓練で得た技術を今後の現場活動に活かして行きたいと思えます。

本科入校に際しては、入校直前まで学校教官の立場として初任科学生や専科学生へ指導しておりましたが、今回は一人の学生として講義の受講及び訓練を実施できたことで、学生としての物事の捉え方や講義での進行状況に合わせた時間配分方法など、様々な方向から学校教育を体験することができ、学校教官としての視野が広がりました。

最後に、北は北海道、南は沖縄から入校した59人の同期とも深い親睦を図ることができ、各所属での問題点や解決策、将来の消防ビジョンを語り合ったことは一生の財産になりました。この2ヶ月間で習得できた知識や技術、同期ととの尊い繋がりを大切に、互いに切磋琢磨し合い、国民の生命、身体及び財産を災害から守ることに精進していきたく思います。

教務課 主査 鈴木 啓介(静岡市消防局から派遣)



シミュレーション訓練風景



学生企画訓練（低層火災）

消大レポート 女性活躍推進コース

令和元年12月12日(木)から12月20日(金)まで、消防大学の女性活躍推進コース第4回に入校させていただき、全国各地から集まった女性消防職員50名(年齢は29歳から46歳【ちなみに私は最高年齢でした】)、階級は消防士長と消防司令補)と共に、7日間の研修を無事に修了することができました。

入校中のカリキュラムで、「指揮訓練」「現場指揮と安全管理」と「火災現場指揮」の講義があり、これからは女性でも災害現場で指揮を任される時代になってきていることを改めて感じ、これも女性活躍推進の職域の拡大に繋がるものなのだと思います。「現場指揮と安全管理」の座学において、指揮者の心構えや責務、指揮の基本事項、安全管理への取組みについて学び、「指揮訓練」の火災対応シミュレーション訓練では、木造2階建て専用住宅から出火を想定し、各種情報をもとに部隊指揮及び活動隊の安全管理を実施する指揮隊の訓練を行ないました。実態の把握、情報収集から状況判断、活動方針の決定、命令、評価を繰り返し行い対応していくことの難しさを実感しました。

それから、実火災体験型訓練の見取り訓練や、注水訓練、完全着装訓練(空気呼吸器取扱訓練)など、火災対応の実科訓練も行ないました。

その他、説得技法の講義では、同僚や部下に対する声掛けの方法やプレゼンテーション能力の向上について実習を交えて学び、女性活躍推進、消防実務管理、消防時事及び消防人事管理では最新の動向、問題点に対する取組み等を聴講することができました。このコースで学んだことを消防学校の講義等で伝えていきたいと考えています。

最後に、この7日間で学生同士女性消防職員の元気なパワーを実感すると共に、女性活躍推進コース第4回の教官と50人の仲間と「女性活躍推進＝自分達が働き続けること」を確認し、少しずつでも前進していくことを約束し締めくくりました。今後、この繋がりを大切にしていきたいと思っています。

教務課 主査 飯塚 幸代(御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣)



注水訓練



指揮訓練



オリエンテーション



消防大学校前

塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー 今月のつぶやき

「今日は…」と書き始めて、僕はちよっぴり考えた…



三行日記

こどもたちが小学校低学年のころ、学校の宿題で「三行日記」というものがあつた。こどもの宿題を見たことはほとんどないが、たまたまそれを見て、「これはいい!」と思い、自分でも書いてみることにした。

これが習慣になり、もう15年ほどになる。我ながら、よく続けているなあと感心する。

時々、数年前の日記を読み返す、これも楽しみの一つ。

「あの時、こんなことがあつたのか!」懐かしさや感動など、いろいろな感情とともにその時の情景が思い出される。文章を書くこと(厳密にはキーを打つことだが…)は、ボケ防止など、ちょっとは効果があるのだろうか?娘からは「またポエム?」と揶揄されている。が、それにも負けず、今日も風呂上り、ビールモドキを片手に、ほろ酔い気分で「学校での出来事」などを書き続ける。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

